



No.261

2005.10.15. 発行

あがら札幌 連絡先
011-644-2927 細田今月通信担当
細田英理子

《 今 月 の 内 容 》

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| ・やっぱり不動産が好き! ----- 1.2.3 | ・紅茶の時間 6-7 |
| ・本と暮らす 4.5 | ・北沢杏子さん囲んで 7 |
| | ・忘年会お知らせ 7 |
| | ・情報 8 |

通信購読料(年間)1200円 郵便振替 02710-3-570 あがら札幌

やっぱり不動産が好き!! (4)

K. S

[4 札幌のマンション購入と売却 続き]

宮部みゆきさんの「火車」の世界が、こんな身近なところでぱっくりと口を開けているとは・・・。理事長は蒸発してしまい、今だに見つかっていません。思えば、理事会の毎月の議案と報告書そして総会資料まで全部用意し、特に決算報告は管理会社の作成した資料ではわかりにくいとの組合員の声を受けて独自に組替えた決算報告をパソコンで作り上げるなど、マンションの住人にとってはこのうえなくこまめで便利な理事長でした。もっとも、私たちの積立金を報酬と考えれば、高給取りだったのですからこれくらいの仕事は何でもなかったのでしょう。これが、まさに生業(なりわい)だったのですからね。また、昨年の春、新しく理事になることを承諾した女性に關し、「この人だけは調査票を封筒に入れて出たのでどういう人が全くわからぬいんだよね」という発言があり、国勢調査の調査員をしてきたから組合員(所有者)だけでなく賃借人のことも何でもよく知っているのだということがわかりました。失踪していなければ今年の国勢調査でもきっと調査員をやっていたことでしょう。

さて、その理事長に請われて理事になった私ですが、理事会でいろいろ質問するため疎まれるようになり、前月号でも書いたもうもろの言動も手伝い、対抗上「住み続ける限り理事を引き受ける」と言明していました。昨年の8月後半は、12日間北大に入院して膝の金具を取り手術を受けていたので、理事会のためにわざわざ外出許可を取って帰ってきたところ、急な日程変更があったとかで私には何の連絡もなく既に終わっていました。9月の理事会はロードヒーティング工事の進捗状況を理由に日程が変更になり、変更後のその日もパソコンが壊れたとかで議案は作られておらず、理事長から延期の提案がありましたが他の5名の理事の日程が合わなかつたので結局その日に行いました。ちょっと変だなとは感じていましたが、10月2日(土)の朝、

「工事業者に工事の残代金（一部は支払済）が払い込まれず、理事長が行方不明でどうやら修繕積立金を横領していたらしい」と聞かされてもにわかには信じられませんでした。忘れもしませんが、呼び出された管理人室で「でも、理事になるとき、通帳は管理会社、印鑑は理事会と別々に管理しているから安心だという説明を理事長から受けましたよ」というと副理事長がニヤニヤ笑いながら「別々に持っているのは管理費だけで、修繕積立金は両方とも理事長が持っていたんだよ」と言いました。私が、通帳と印鑑は別々に管理という説明を受けていたとき、他の理事は誰もこのことを教えてくれませんでした。今回の件はテレビや新聞でも報じられましたが、一人の人間が自由にお金を引き出せる環境を放置していた理事会にも非があると呆れられたのではないかと思います。後でわかったことですがこのマンションでは横領した理事長の何年も前から、このような体制になっており、そのことは理事経験者等多くの人が知っていました。理事長就任直後から始まった横領は連綿と続いており、その間1回でも監査を的確に行っていれば容易に発覚したはずです。しかし、前監事は「いくら言っても通帳を出してくれなかった」と主張するのみでした。

直後に開いた2回の説明会、そして10月24日の臨時総会に向けて毎日のように打合せを行い、準備資料を作成しました。夜間の授業はかなり欠席し、出席してもショッちゅう居眠りをしていました。前年度に副理事長は新しい管理規約をすべてパソコンで作り直し、昨年の2月からはカラー刷りの「かんりくみあいだより」を毎月作成配付していたのに、彼はパソコンで資料を作らずすべての原稿が手書きで私はそれを添削し、睡眠時間を削って短時間で入力し、校正しましたが、どんどん手直しが入りその都度パソコンに入力し直さなければならず、仕事もあるのですっかり疲れてしまいました。

副理事長が新理事長になって以降、通帳は管理会社に渡したものそれ以外何の改善もなく、私はその年から会計を引き受けたのですが、今までの会計担当者と同様小口現金で支出した領収書しか渡されず、いろいろ口出しをすると新理事長から嫌な顔をされるようになりました。説明会で鋭い質問を投げかけた方々に是非新年度の理事に就任してくださいとお願いして歩きましたが、誰も引き受けてくれませんでした。もうこれ以上理事を続ける気力も住み続ける気もなくなってきた頃、前に住んでいた家を借りてくれていた人が賃借料を滞納しだし、そのほとんどを国民生活金融公庫への返済に充てていたため、マンションを売らざるを得なくなりました。年末の理事会で売却する事情を説明すると、「ずっと理事を引き受けるって言ってたでしょ」と笑われてしまいましたが、実のところ、私にはもはや理事や管理会社を信頼して管理費や修繕積立金を払い込むことができなくなっていました。また、新理事長が「修繕積立金の通帳と印鑑は理事長が一緒に持っていたんだよ」と告げたときのあのニヤニヤした顔も忘れることができませんでした。



パートの傍ら、定期総会に向けての小口現金の決算報告書の作成、卒業のための期末テスト、借家の退去交渉と修繕等々を行い、そのうえに引越しのための書類整理と掃除が加わり、ヘロヘロになりながら大学のすぐそばの1LDKの賃貸住宅を見つけて引越しました。

3月下旬になってやっと不動産業者に売却を依頼できる状況になりましたが、“お部屋探しシーズン”も終わりに近づいていましたので、最悪の場合来春まで1年塩漬けになるかも・・・と覚悟しました。何しろ、修繕積立金がない（ないどころかロードヒーティングを行った業者への工事代金を支払うため、管理組合で借金をしていました）という事実と、マンションと道路を挟んだ向かいの駐車場にどうやら建物が建つらしいという大きなマイナス要因を抱えているのですから本当に暗い気持ちになっていました。

まずは大手不動産会社3社（A社、B社、C社）に連絡し、それぞれと一般媒介契約を結ぶつもりでした。ところが、この物件を購入するとき仲介してもらった業者さん（担当者は違います）が、「ものには相場というものがありますから、この金額ではちょっと・・・」と不動産の価格形成の要素をとうとうしゃべりだしましたので、「どんなに人気の高い物件でも契約を締結できるのは一人だけですよね。私にとっては一人の方に気に入っていたければそれで結構ですから。」と引き取っていただき、その代わりに札幌で多くの拠点を持って売買している地場の業者さん（D社）に入ってもらいました。

数日のうちにD社から申し込み（ローン特約付、売買価格を50万円下げるとの条件付）があり、A社とB社にすぐ伝えておきましたところ、翌日A社からも申し込み（現金払い、同じく売買価格を50万円下げるとの条件付）があり、A社とB社でエスカレートして行き最終的には提示価格どおりでD社の媒介により成約となりました。ただし、D社の担当者にはがっかりしました。実行日に銀行に持参するものについて、前夜9時頃携帯電話に連絡してきたからです。しかも、固定資産税の按分計算について電話では伝えてくれませんでした。その日の昼間何回かFAX音が留守電に入っています（私は引越し前はFAXをつけていましたが、新しいところにはFAXがありません。）おかしいとは思ったのですが、成約から数週間の時間があったのだから書面で送付してしかるべきです。D社には、書類の作成がしやすいように購入したときの重要事項説明書等を全部提供したのに、D社の体質なのか、担当者の性格なのかわかりませんが、何のために手数料を払ったのかと今でも腹が立ちます。3年前に購入したときのC社の担当者は申し分なく、多分A社であってもB社であってもスムーズに不安なく取引できたと思います。

まあ、何はともあれ4月下旬には国民生活金融公庫にも全額返済することができました。手元にはほんの少ししかお金が残らず、相変わらず貧乏ですが、一応“ラッキー！”ということにしましょうか。（おわり）



本と暮らす

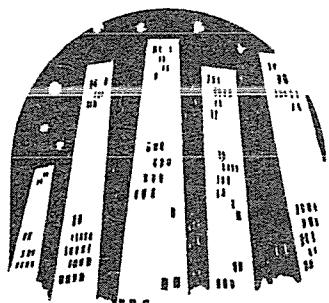
(34) 「対岸の家事」

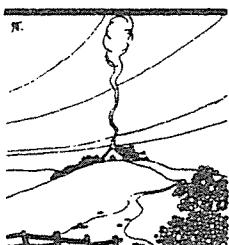
南伸坊著
新潮OH!文庫刊

最近の私の生活は、ひとえに、ラクナ梗塞で少々ボケが入ってきた父が作る夕食（ただし平日のみ）に支えられています。低空から中空飛行くらいで仕事を終えて、やれやれと帰宅したときに、あつたかいごはんとオカズ（90%は冷凍食品をチンしたか、市販のお惣菜をプラパックからお皿に移したもので、残りは野菜のおひたしなどですが・・・）がある、ということくらい、心和むことはありません。遷延した「うつ」で、一見したよりもはるかに余力が少ない私にとつて、「毎日なんとか働き続けられるのは、この夕食のおかげ」と言つても過言でないくらい、本当にありがたいことです。「ひどい鬼娘よ」と眉をしかめる御仁もいるかもしれません、父のボケの進行防止にもこれは断然役に立っています！！

もちろん、様々なサポートはしているのですよ。なんと言つても、まず、メニュー決めのお手伝いです。これも、ボケの進行防止にと父に毎日打ってもらっているパソコンメールに書いてあることは、ほぼ80%が「今日の夕食、何にしよう？」であります。「うつ」でもボケでもそうですが、メニューを決める、というのは実にフル回転で脳を使う作業で、かなりしんどい。私は実家の冷蔵庫の「在庫」は、ほぼ把握していますから、具体的にいくつかメニューを書いて返信します。

休日は、私が当番になっているのですが、私が好きなオカズ（たくさんのキャベツとシメジ・ソーセージの炒め物とか、豚肉の切り落としとキクラゲ・パプリカの炒め物とか、キャベツとハンバーグの煮込みとか）を入れ歯の両親がだんだん食べれなくなってきてるので、張り合いのないこと おびただしい限りです。「こんなに削っていいの？！」というくらいに、キャベツの芯を落としても、「硬い」「食べきれない」「残りは、あんた、食べなさい」だもんね・・・。





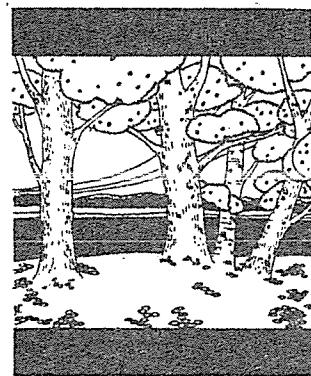
昨日、イクラのしょうゆ漬けに挑戦しました。人肌くらいのお湯のなかで、ずつしりと重い筋子から皮と筋を除いていく作業は「ひえー、こんなにデカイ筋子を買ってくるんじゃなかつたぜ」というものでしたが、できあがつたイクラはきれいにオレンジ色に輝き、漬け汁に漬け込んだあとは味もよく、両親の絶賛を浴びたのであります。こういうのは、気持ちいいね!!

さて、この本は、性別役割分業になんの疑問も持っていない南さんが、「家事についてコラムを書いてほしいんですよ」という依頼を引き受けたがゆえに、家事を実地にやってみた体験記です。「共働きの場合は、どちらか手のすいた方がやればいいのでは」などという楽観主義には「世の中、そんな甘くないんだよ、ちっちっち」と言いたくなりますが、ツマ文子さんの指導に従って、なんでもチャレンジする姿勢には大変好感がもてました。そして、コラムの連載が終了したあとも、ごく自然に家事を分担している彼は「いいひと」だな、と思いました。できれば、「家事は分担したほうがいいぜ」と言ってほしかったけれど、そこまでは主張しなくとも「家事って、意外に楽しいよ」とつぶやく姿勢は、肩肘はったオトコたちの脳髄にも染みて行きそうです。

びっくりしたのは、彼が日々手作業をなりわいとしているゆえか、料理が好きになっていく（！！）過程が素直に表現されており、「自分が作ったものがうまい、ということはすんごい嬉しいことだ！！」というような感想が随所に出てくるのであります。最後には、なんとフランス料理に挑戦して、『「フランス料理、おそるるに足らず！！』と私は獅子吼し（略）』なんて、すんごい表現も出てきます。私もイクラのしょうゆ漬けみたいな「成功体験」を積み重ねれば、料理好きになるのであろうかしら？ 確かに、自分で作ったものが美味しいと、家族に絶賛されると、悪い気はしないですね。でも、私の場合、それが持続して

「じゃあ、次は・・・」となかなかならないのですよ。アップル・パイも焼いてみた。ぬかミソ漬けも手がけてみた。みんな、そこそこのデキで、指導した母は「あんた、意外に素質あるじゃないの？」と誉めてくれた。でも、続かない。。。私も南さんみたいに料理好きになりたいよ～。

この本で、取り上げられていない大切な家事は、「メニュー決め」であります。本当は、そこにも挑戦してほしかったなあ。



(小松ともみ)

紅茶の時間 谷百合子



この夏は、千客万来であった。青森県六ヶ所村の再処理工場建設反対行動や、六フッカウラン搬入阻止の為に女たちでテントを張った二人が、家族で遊びに来た。二人は身体も心もビッグで、私も含めて、六ヶ所村の魔女と称されている。グリーナムコモンの女たちのように非暴力直接行動のアイディアが繰々と溢れ出る。台風でテントが飛んだり、身体はキツかったけれど、次々と歌が産まれ、野の花をあの巨大なコンクリートの門前に敷きつめたり、歌や踊りや祈りの時間と、目いっぱい女の発想をやった。女と子どもだけでいる事が、こんなにも心地よいとは思いもしなかった。勿論、協力してくれた男たちも忘れてはいない。シュプレヒコールや、組織の枠にあきたらない男たちは、この運動スタイルを評価してくれた。

新潟のOさんは、百姓をしたり、選挙に出たりと、地元で行動を起こしている。福島のMさんは、教職員生活をさらりと止めて、なんと山の中に喫茶店を出した。地元の木材で建てた広々としたお店は、一歩足を入れただけで、身体がほぐれる。彼女もお母様も、天女のような方なので、桃源郷にいる心地がする。そこでは、様々なエコグッズも販売されており、私は太陽光発電の充電器を注文している。どんぐりカレーは一週間前から仕込むので、要予約との事。三春の山奥の不思議なお店は（0247-82-5190）

大阪と東京から学生時代の友人が来た。二人は、新聞会で一緒の仲間である。大阪のOさんは、年二回、長期滞在をする。今回も二週間、北の夏を楽しんで行った。彼女は、気功に精通しており、私と一緒に施設で気功の体験教室をしてくれた。又、韓流映画にも精通（？）していて、ビデオを見ながら、韓流映画の正しい（？）見方を伝授された。韓国映画では、あり得ない事が起る。

死んだはずの人気が生き返ったり、こんなところでスレ違うなんてあり得ない！とか、パターンが決まっているetc.しかし、私は思う。私の場合は、先祖帰りの様な気がする。懐かしさ等という浅いものではなく、ルーツ！又、日本では死語になった「切なさ」を感じた。



東京のNさんは、現役の中学校教師。東京は下町のベテラン教員。来年が停年。日々校長との闘いであり、現場と組合活動でへとへと言いながら、女手ひとつで子ども二人と両親を抱えてやって来た。話の中から、子どもたちや親からの厚い信頼が伺えて胸が熱くなった。

女はみんな生きている♥



=3 =3

北沢杏子さんを囲んで

一性教育、男女平等教育のゆくえ

北沢さんは性教育のパイオニアで、全国各地をとびまわり、授業や講演活動等を行っています。またアーニ出版を立ち上げ、ビデオ教材や数々の著作物も販売しています。女性起業家の草分けの一人です。

最近、男女平等が面白くないと思っている連中により、性教育やジェンダーフリー教育に対しての批判・バッシングが強まっています。北沢さんの話を聞きながら、性やジェンダーについていろいろ語り合いましょう。

- ・11月8日(火) pm6:30~
- ・男女共同参画センター(北8西4エルプラザ) 4F 大研修室 500円
詳細はあご札幌(644-2927)へ

* 北沢さんは9日(水)には市内の高校で「従軍慰安婦」についての講演予定しています

あごら忘年会 のお知らせ

12月10日(土)pm6:00~

細田宅(011-644-2927) 1品持ち寄り

ふだん参加できな
い人、是非
来てね！



INFORMATION

■ 10月25日（火）18:30～

「遊」連続講座 自由と安全を考えるーしのびによるファシズムに抗して 第1回 小倉利丸さん講演「監視社会と戦時体制」

お話 小倉利丸さん（ピープルズプラン研究所共同代表、富山大教員）

場所 かでる2・7、720研修室（北2西7）

主催 自由学校「遊」 252-6752 1,000円

■ 11月8日（火）18:30～「北沢杏子さんを囲んで」

場所 男女共同参画センター 500円

主催 あごら札幌（644-2927） * 詳細は7ページ参照

■ 11月13日（日）18:30～

アムネスティ・インターナショナル全国スピーキングツアー

「子ども兵士のない世界を目指して」

お話 松本仁一氏（朝日新聞社編集委員）

ゼヤー・リン氏（ビルマ出身、子ども兵士として徴収された経験あり）

場所 札幌エルプラザ内男女共同参画センター4F大研修室（北8西3）

主催 アムネスティ・インターナショナル／ノルテ札幌、札幌28G、北広島グループ

問合せ 664-6216（大野） 800円

■ 12月5日（月）18:30～

「辻本清美さんと語ろう」

場所 かでる2・7 150号室（北2西7）

連絡先 664-0632（谷） 500円



◆◆◆あとがき◆◆◆

先週、あごらメンバー3人でサイクリングに行ってきた。銭函まで23km、1時間40分かかったけど、とても気持ち良かった。「海商」でおいしい魚介類を食べて、生筋子も買ってきて大満足（とても安かったの！）。ただハプニングもありました。Yさんは自転車がパンクして、帰路は汽車で帰る羽目に。。Sさんはぶどう一箱買ってきたけど、自転車に揺られたせいでかなりグシャグシャになってしまったそうです。（E）